

# 2025年度(総合型選抜)AO選抜入学試験

## 国際関係学部「国際関係学専攻講義選抜方式」

### 1. 実施状況

#### (1) 志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻等	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
国際関係学専攻	113	50	31

#### (2) 本入学試験の目的

「国際関係学専攻講義選抜方式」は、国際関係学部 国際関係学科 国際関係学専攻の入学を志望し、国際社会の諸問題に対して高い関心と探求心を持ち、自発的に学習に取り組むことができる方を受け入れるための入試方式です。

単なる学問的な理解力や分析力だけではなく、国際社会の諸問題を自分事として捉え自らの考え方や意見をしっかりと持ち、将来的に、行政・経済・文化・平和といった観点から社会に貢献できる可能性を秘めた方の選抜を目的としています。

### 2. 試験内容

#### (1) 第1次選考

第1次選考は、エントリーシートの作成を出題しました。エントリーシートの内容は以下の通りです。

「立命館大学の国際関係学部で学びたい分野やテーマと、なぜそれらを学びたいのかを、あなたの経験と関連させながら記述してください。」（1,000字以内）

また、英語外部資格試験証明書の提出も求め、基礎的な英語運用能力の確認を行いました。

#### (2) 第2次選考

第2次選考では、20分間の「講義」、50分間の「小論文」試験を実施しました。講義については、「小論文」試験のテーマ・情報提供として位置づけ、「小論文」の試験を通じて行いました。

講義テーマは「宗教のグローバル化と日本におけるイスラームのイメージ」としました。そのうえで、小論文の問題を「多様化する日本社会における、いわゆる『他者』や『マイノリティ』に関する理解の現状と課題について、自分の考えを述べてください」とし、受験者に作文を指示しました。

### 3. 出題の意図

#### (1) 第1次選考

第1次選考では、自分自身の経験を基に志望動機や学習計画について確認するための設問を設定しました。次項「評価のポイント」で詳細を述べますが、受験者自身の経験や体験、その他の具体例を交えて記載してもらうことで、受験者の意欲や態度、知識について確認することを意図して出題しました。また、あわせて受験者の文章作成能力を測ることも目的としていました。

#### (2) 第2次選考

小論文では、二項対立的および一般論的な意見ではなく、多様な意見を踏まえて、自らの深い考えに基づいた説明を論理的に展開することを重視しました。そこで、「多様化する日本社会における、いわゆる『他者』や『マイノリティ』に関する理解の現状と課題について自分の考えを述べ

る」ことを求めました。本小論文は、より自由度の高い問い合わせることで、問題意識の深さ、自己の意見を論理的にまとめる力、そして文章の構成力を見ることを目的としました。

#### 4. 評価のポイント

##### (1) 第1次選考

エントリーシート全体を通して、受験生が国際関係学部で何を学び、どのような活動に取り組みたいと考えているのか、学部での学びを生かして将来どのような取り組み（就職や大学院進学など）を展開したいのかという点に着目しました。

入学後に学びたい分野やテーマについては入学以前の段階であることを考慮し、ある程度漠然としたイメージであることは許容したうえで、受験生自身の経験や体験とつながりを持って記述できているか、単なる印象論に留まることなく国際社会の諸問題への関心や知識などについて、可能な限り具体的に記述することができているかを評価しました。また、国際社会の課題に高い関心を持ち国際関係学部での学びに対して高い意欲を有しているかを評価しました。

加えて、文章表現の正確さ、説得力、論理構成なども評価対象としました。

##### (2) 第2次選考

小論文では、受験者の講義内容及びそれに関連するテーマについての理解度、論理的思考力および表現力（質問に対する応答の的確性・内容の一貫性・簡潔・明瞭性等）を中心に評価しました。50分という時間の中で、講義を通じて整理した自身の考えを、文字を通じて論理的かつ分かりやすく表現できているかという点を評価しました。

#### 5. 解答状況

##### (1) 第1次選考

立命館大学国際関係学部の「国際関係学専攻講義選抜方式」入学試験は、本学国際関係学部を志望し、自分なりの視点から国際関係を考察し、創造することのできる能力に優れた人を受け入れるための入試方式です。つまり、学校で勉強して身に付ける理解力や分析力だけではなく、自らの考えや意見をしっかりと持ち、それにもとづいて平和で豊かな新しい国際関係を創造していくことができる人を選抜する試験です。したがって、解答は受験生自身の経験や体験にもとづいた内容であることが強く求められました。国際社会についての関心の度合いや学習意欲が評価の中心となり、「入学後に学びたい分野やテーマ」に関しては、まだ入学以前の段階ですので、それほど細かく絞り込む必要はありませんが、受験生自身の経験や体験が、単なる印象にとどまることなく、国際政治や国際経済などの具体的な分野やテーマに結びついているかについて着目しました。また、文章表現の正確さや説得力、論理構成なども評価の対象としました。

##### (2) 第2次選考

講義内容を踏まえて、日本社会における「他者」や「マイノリティ」理解についての現状と課題を認識し、独自の考えを論理的にまとめることを求めました。全体的に、講義内容を要約し、日本社会に根深くある他者への偏見を課題として挙げ、多文化理解の必要性を訴えるというように一般的かつ表面的にまとめているものが多く見られました。中には講義内容をまとめるのではなく、留学先での経験や具体的な「マイノリティ」に対する偏見・差別の実例を挙げることで講義内容への理解を示しているものもありました。日本社会における他者への偏見・差別の原因を独自に論理的に分析し、さらにそれをなくすための解決策を具体的に説明している、批判的な思考と問題解決の意識の深さを表す小論文が高い評価を得ました。また、マスコミ報道の問題点やネットリテラシーの重要性、さらに多様性を受け入れる教育の必要性を論じたものもありました。

## 6. 次年度の受験生へのアドバイス

第1次選考では、日々の経験や体験の中に国際関係にかかわる事象を見つけ、それを深く考え抜く能力が問われます。もちろん、その経験や体験というのは、長期留学や異文化体験だけを指しているのではありません。ふとした日常体験の中にも、複雑な国際関係が色濃く影を落としているものです。まずそれに気づく力、持続的に考え続ける力、そして社会問題全般に対する問題意識を日々磨いていってください。また、学部ホームページなどで国際関係学部のプログラムについて下調べした上で、自分の希望とのマッチングをある程度述べられるとなお良いでしょう。第2次選考で課される小論文を作成するには、議論の要約力や論理的な文章作成能力も問われます。新聞やメディアを毎日欠かさずチェックし、国際的な問題、さらにそれが日本の政治経済社会にどのような影響があるか、などの点で特に教養的内容の書籍やドキュメンタリーを数多く眼にして、日頃から内外の課題となっている問題について深く考える習慣を身につけましょう。また、物事を客観的にとらえ、自分の考えを論理的に表現する文章作成の訓練についても、段落分けや誤字に留意しながら行っておくと良いでしょう。

以上